

<p>第51号 平成25年 2月 HPに 創刊号から 連載中</p>	<h1>もう一つの道</h1> <p>情報は、うのみにせず、注意深く 徐々に試してください。</p>	<p>山田整骨院 熊本市中央区出水4-25-1 096-364-7611 http://yamadasu.com/ 熊本交通事故, 山田整骨院 http://www.jiko-kumamoto.net/</p>
--	--	--

老人と健康
九十九歳倶楽部西先生講演摘要
昭和28年 6月号 月刊西医学

現在米国あたりの医書には盛んに老人医学と云う言葉が使用されて居りますが、老人医学なる言葉は頑来あり得る道理はないのであります。いくら老人を研究しても老人を若返らす方法を発見出来ない、やはり若い健康な人を研究して初めて年をとらない方法が発見出来るもので、例えをとって云えば、貧乏人を研究しても金持ちになる方法は見付からないと同様であります。だから常に自分より10歳から20歳若い人々の思想なり歩き方を研究して真似る事が必要です。二十年も経って西医学が普及した時は六十歳の人々の歩き方は今とは大変に変化ある事と思います。つまり地球を蹴って歩く、踵で地面をけて自分で地球を廻してやるんだと云う考えを持って歩かれることが必要であります。

それから朝、床を見たら死んで居たと云う事がしばしば聴くことですが、之は寝て居る中に脳溢血を起こした場合です。之はやはり便通を気を付ける事で、もし便通が二日以上もなかった時は 起きている時と寝ている時と脈を測って見て 寝ている時の方が脈が十位少なかった場合は脳溢血は起こす心配はありませんが、もし同じ数だけ脈を打っていた時は動脈硬化症であります。これはドーランドの医学辞典をご覧になってもユーシャール氏徴候と云う所を見ますと直立姿勢から横臥姿勢に変わっても、これに伴うて脈搏の速さが減じないときには、このことは動脈硬化症の徴候である、とあります。だから今日は便通がなくてちょっと体の変だと思いましたが脈を測って見る事です。そうして寝ている時と起きている時とが同じであったならば、寝る前に自分自身に暗示をかける事であります。脳溢血はおやすみになってから大体三時間半以内は起こさないものでありますので、三時間半をしたら目を醒ますと自分に暗示をかけると目が醒めます。もしこの時、腹がはっている様でしたら浣腸をするのが一番良いのですが、まあ出来ない場合はスイマグでもお飲みになって またお寝みになり三時間半位したら又起きる。つまり途中で一回眠りをさまして又寝ると云う事が大切なのであります。

それから年をとり楽しみが食べる事だけになりましてどうしても食べ過ぎるようになりますから、食べない楽しみを味う事が大切であります。こうする事により老人顔になる事がないのであります。

又よく皮膚にしみが出来て来ます、これは年をとった証拠の様に思われて居りますが、これを早く取る秘薬を公開いたしましょう。その前にこのしみは表面よりずっと深く骨まで達している場合があります。こういう時は期間がかかります。ですから同じ面積でもその深さの度合いにより期間が違って来るのであります。それは硼砂を水に溶いて付ける事でありませぬ。一番良いのは硼砂をヘチマ水で溶いたのが一番よいもので、硼砂は浸透性が非常に強い薬でどこの薬局でもすぐに売ってくれます。以下略。

解 説

西医学では脳いっ血の原因は便秘・宿便と捉えています。もう一つの道第 40 号の解説で紹介していますが、昭和 11 年 3 月発行、慶応大医学部川上漸教授講演録「老衰の原因」で、脳と腸の関係について、実験と研究成果が発表されています。実験により便の毒が脳内出血を起こす事が証明されました。

昭和 33 年 5 月に「脳溢血」に関する主題で西医学医師座談会が催され、月刊西医学に内容が掲載されています。病院の院長から助からないと言われた脳溢血の患者の腹部に味噌湿布をして、腸に運動を起こして大量の便が出て助かったこと。足が弱ると肛門の括約筋が締って宿便がたまること。それ故、味噌湿布をする時には肛門にびんつけなどの油を押し込むこと。断食をして、宿便が降りてきたのが、半分は浣腸でも出ずにつっかえるのを、非常手段で指でかき出す必要があること。等が論じられています。又、当時済生会横須賀診療所長の関本医師は脳溢血の原因も精神異常の原因も、脳血管の充血貧血の度合いによって生じ、断食で治療できると断言しています。

筆者の父親が八十歳の時脳溢血を起こしました。救急病院での処置の後西式の医院へ転医して一ヶ月後、断食や浣腸等で大量の便が出ました。その後言葉が出るようになり会話が出来るようになりました。本人も嬉しかったと思います。つい最近知り合いのご主人が脳出血で倒れたと聞きました。是非宿便排泄療法を試して貰いたいと思います。

スイマグとは水酸化マグネシウムという下剤です。フランスで癌患者の少ない地域に塩化マグネシウムが多い事、中国で薬効のある水が炭酸マグネシウムを含有していたことから西先生が発明した薬です。現在、三保製薬（株）が製造発売しています、薬剤ですので販売は出来ませんが、紹介は出来ますのでお問い合わせください。